

1 から学ぶ中学受験算数 ～第26回仕事算①～

氏名：

解答・解説

例1 Aさんが1人ですると10日、Bさんが1人ですると15日かかる仕事があります。

この仕事を2人で一緒にすると、何日で終わることができますか。

☆仕事算の解き方
全体の仕事を
最小公倍数でおく！

全体の仕事を10と15の最小公倍数の30とする。

Aさんは1日で $30 \div 10 = 3$ する。

Bさんは1日で $30 \div 15 = 2$ する。

だから2人一緒にだと1日で $3 + 2 = 5$ する。

$$30 \div 5 = \underline{6 \text{ 日間}}$$

例2 ある水そうを満水にするのに、水道管Aを使うと20分、水道管Bを使うと30分かかります。

はじめ、水道管Aだけで5分水を入れた後、残りをAとBの両方使って入れるとき、

水を入れ始めてから満水になるまで何分かかりますか。

満水の量を20と30の最小公倍数の60とする。

Aは1分で $60 \div 20 \text{分} = 3$ 出る。

Bは1分で $60 \div 30 \text{分} = 2$ 出る。

2つ使うと1分で $3 + 2 = 5$ 出る。

Aだけ5分使うと $3 \times 5 = 15$ ためる。

残り $60 - 15 = 45$ ためるのに、

$45 \div 5 = 9$ 分かかかる。

だから水を入れ始めてからだと、

$$5 + 9 = \underline{14 \text{ 分}}$$